

## 全国学校図書館協議会創立 70 周年記念事業

### 「あん唱運動の会」創設と活動の展開

日頃より子どもたちの読書推進運動にご尽力賜り感謝申し上げます。ただ今、「読書の楽しさと知る喜びを一人でも多くの子どもたちに！」を目指した、「あん唱運動の会」（詩を声に出す喜び SOLASIDO）を開始いたします。

なお、この運動が楽しくやわらかなイメージとなるように、ひらがなで「あん唱」としました。SOLASIDO は、空（SOLA ソラ）で詩（SI シ）を読む活動（DO ドウ）です。

近年、子どもの読解力低下が懸念されています。教科書や新聞、マニュアルや契約書などのドキュメントの意味および意図を迅速かつ正確に読み取ることができない子どもが増えているとの調査結果が報道されました。一方、新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけた（アクティブ・ラーニングの視点）授業改善が求められています。これは、すべての教科学習で共通する資質として、資料の内容を読み解く力や要約する力、まとめて表現する力などの読解力向上が喫緊の課題だからです。

読解力を育む事例として江戸時代の寺子屋の音読指導により、有数の識字率を誇っていたことや、湯川秀樹博士 4 兄弟が幼少期から四書五経をあん唱していて、全員が大学教授になったなどは有名です。また、昨今世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症から子どもを守るための休校や分散登校などにより、家庭での学習を通して子どもたちは、本を手にする機会が増えました。読書の楽しみ方として、家族を交えての「音読」や「あん唱」も効果的です。特に、詩歌は韻や言葉のリズムが心地よく、楽しみながら語彙力を育み、文章の構成要素を身に付けることができます。

このように「音読」や「あん唱」は、読解力向上に有効だと考えられます。先の事例でも明らかのように、文章や詩歌を声に出して読むことで脳が活発に働いて理解が深まり、記憶にも強く残ります。「音読」や「あん唱」を一步進めて、それを身体で表現すれば、成就感で「躍り上がって喜び」、いっそう強く記憶に残るはずです。

子どもたちの周りには、スポーツやゲームなど楽しいことが数多くあります。こうした楽しいことの一つに読書を加えようではありませんか。そのために、「音読」や「あん唱」により、身体で表現して「躍り上がって喜び」といったわくわく体験を積み重ねることで、子どもたちが読書を心から楽しめるようになるはずです。私たちは、詩歌を「音読」や「あん唱」して身体で表現する楽しみを、鋭敏で豊かな感受性をもつ子どもたちに薦めるために、読解力向上の礎を築く新たな読書運動の準備を進めています。詩歌ならば、覚えやすい文字の分量で、言葉のリズムを体感できるので、「音読」や「あん唱」に最適だと捉えています。

2020 年の全国学校図書館協議会創立 70 周年記念事業として、「あん唱運動の会」（詩を声に出す喜び SOLASIDO）を創設し、その活動を開始いたします。

皆様方のご協力・ご支援をお願い申し上げます。

2020 年 7 月

公益社団法人全国学校図書館協議会

理事長 設 楽 敬 一  
顧問 笠 原 良 郎